

ウクライナ問題とマスコミ報道

結城 洋一郎

ウクライナ問題に関するマスコミ報道の偏狭さには目を覆いたくなるものがある。そこで以下、我が国のマスコミがほとんど報道してこなかった事実を列挙的に紹介しておきたい。

- (1) 今年二月のヤヌコビッチ政権崩壊に際して主導的役割を担ったのはネオナチ（「ライトセクター」とその中核政党「スヴォボダ」）である。二月二二日、彼らは仲間のデモ隊を狙撃して数十人を殺し、その罪を政府にさせることによって政府を転覆した。
- (2) アメリカは一〇年以上にわたって反政府勢力に多額の資金を提供し、今回はデモ開始当初から政府要人たちがキエフに赴いて直接クーデターを支援した。また西側諸国から多数の傭兵、退役軍人、情報機関関係者が参加していることも確認されている。
- (3) クーデター後の暫定政権の首相は、事前にアメリカが名指ししていたヤツェニウークであり、彼らは内務省内に「国家親衛隊」なる武装組織を編成して反対派に対する弾圧や暴行を開始した。その隊員の一部は西側の訓練を受けていると言われている。
- (4) 五月二日、オデッサで少なくとも数十人の「親口派」が惨殺される事件が起きたが、この時も暫定政権の殺人部隊が親口派を偽装して自分の仲間の市民たちを銃撃し、虐殺の環境を整えている。（この「偽旗作戦」も各種動画によって実証されている。）
- (5) この間、クリミアは住民投票によって独立を宣言し、次いでロシアに復帰することを決定した。これらでの投票において不正行為がなかったことは国際監視団によって確認されている。（一方、米欧政府はこれを「ロシアによる一方的編入」として非難しているが、かつて自らが強行した「コソボの一方的独立」との整合性については沈黙している。）
- (6) 五月二五日の大統領選挙に際しては、反クーデター派の複数の候補者が逮捕されたり重傷を負わされたりしており、選挙の公正は全く保障されていなかった。
- (7) 現ポロシェンコ政権は東部「親口派」住民に「白リン弾」を投下する等、各種戦争犯罪を犯している疑いが強く、その動画がYoutube上にアップされている。
- (8) 七月一七日のマレーシア航空MH17便撃墜事件に関し、米・宇両政府は直ちにこれを親口派側のミサイル攻撃によるものと断定して激しく非難しているが、ロシア政府は七月二〇日と二一日の両日、これに対して詳細な反論を行った。その要点は、
 - ① 犯行の証拠とされる会話記録は音声解析により捏造であることが判明した。
 - ② 同会話は、事件前日の一六日に予め既にアップされていた。

- ③ ブークミサイル運搬の動画は政府軍の支配地域内で撮影されたものである。
 - ④ 撃墜当日、政府軍は撃墜現場近くにブークミサイルを増強してレーダーを稼働させ、事件直後にそのほとんどを撤去したが、親口派がブークレーダーを稼働させた事実はない。
 - ⑤ 政府軍はMH17便の近くに戦闘機二機を飛行させた。
 - ⑥ 米・宇政府が保有する関連資料（航空管制記録や米軍側の衛星写真ほか）を開示すべきである、等である。
- これに対し、米・宇両政府は何ら答えることなく沈黙を続けているところである。さて、我が国のマスコミはこうした事実をどれだけ報道しただろうか。
- 日本に限らず、マスコミを盲信することは極めて危険である。例えば、英国のBBCとアメリカのCNNは、シリアにおける「アサド政権の残虐行為」と称するニュース映像を多数捏造して配信した（その証拠動画がYoutubeにアップされていて衝撃的である）。
- また彼らによれば、米国やサウジが生み出したシリアの残虐な武装集団は「独裁と闘う反政府勢力」なのだそうだが、これがイラクに移って「イスラム国」を名乗った途端に「悪魔のようなテロリスト」に変わり、残るアルカイダ等は「穏健派」と呼ばれるのである。
- 古来、戦争はこうした事実の歪曲と隠蔽によるプロパガンダから生み出されてきた。今、私たちはこうした過去の教訓に目を向け、多様なソースから情報を得てその可否を自ら検証する努力をなすべき時期であろう。

八ゆうき よういちろう・小樽商科大学名誉教授